

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第121号 〔2020年8月発行〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。
JAMより、2020年8月号の会報をお送りします。

JAMは2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。
支援者の皆様へJAMの最新の活動を2カ月に一度、会報メールにて発信いたします。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次>

現地（メソト）から

国際保健医療協力のなかで（45）

メディア出演情報

国内から

編集後記

次号の予定



現地（メソト）から

メータオ・クリニックに新しい送迎用のバスが導入されました！

このたび、メータオ・クリニックとJAMを応援して下さる皆様のご支援により新たな送迎バスが導入されました。

メータオ・クリニックに通院する患者さん、働くスタッフたち、移民学校で学ぶ学生たちにとって送迎バスは必要不可欠なものです。彼らの中には公的な滞在資格を持っていない者もあり、移動の途中でタイ警察に捕まるリスクがあります。しかし、メータオのロゴを載せた送迎バスを利用することで、そのリスクを減らすことができるのです。

ですが、30年以上も使用されてきたこれまでの送迎バスは、老朽化も激しく、維持に多くの費用を費やしていました。

そこで昨年、メータオ・クリニックの要望を受けてJAMは、JAMを応援して下さる方々とメータオ・クリニックの橋渡しをお手伝いし、今年6月末に無事、新たな送迎バスの購入、運用に至りました。

今回のプロジェクトの素晴らしい点は、購入費の多くはメータオ・クリニックのファンドレイジングチームの声掛けにより現地の方々、地域住民一人一人の寄付により賄われたということです。この先も長く長く、地域みんなに愛されるバスになるでしょう。

温かなご支援をいただきました皆様に心から感謝いたします。現地と日本からの応援を力に走り出す新しいバスと安心して乗車するみなさんの姿を早く見てみたいです。



↑ 30年以上使われてきた旧送迎バス



↑今回導入された新しい送迎バス

国際保健医療協力のなかで (45)

【小林 潤】

新型コロナウイルス感染症は幸いにして現在のところメータオクリニックに被害をもたらしていない。タイ、ミャンマー両国とも国境での人の行き来を事実上止めていることと厳しい検疫体制によって抑え込みが成功しているともいえる。

しかし、タイにおいても経済的影響は大きい。こういう時に一番始めに切り捨てられるのは外国人である。私の住む沖縄においても、日本語学校で学び飲食店のアルバイトで日々の生計をたてていたネパールからの留学生の多くは一番始めに失業してしまった。民間団体の支援が行われているが、いつまで続くのかはわからない状態だ。シリア内戦によって隣国トルコを始めとしてヨーロッパ各国に逃げた難民は220万人以上といわれている。この多くは職を失っている。さらに新型コロナが蔓延してしまった地区においては、失業だけでなく難民にむけられる差別偏見と難民のコミュニティーのなかでの暴力が深刻な状況になっている。これらの地域では、女性が体を売って得るお金しか現金を得る手段がないところまで追い込まれているとも聞く。タイで暮らしているミャンマーからの労働者の状況は伝わって来ないが、すでに経済的に追い込まれている人もいるのではないかと想像される。今後人の行き来が再開されるとウイルスが猛威をふるい始め、さらに人々の生活状況は悪化することも



容易に予想がつく。

感染症のパンデミックは病院にいない限りは、地震や台風といった自然災害や戦争と比較すると目には見えない。従って、危機感が持続されることもないと言われている。メータオクリニックにおいても恐らく危機感はそれほど強くないのだろうと予想される。しかしだからこそ院内感染対策の強化を今とっておくことが必要と強く思い、遠隔での支援だけでなく有高医師のJAMからの再派遣を模索してきた。現在、有高医師は都内の病院で勤務しながら新型コロナ対策に直接立ち向かっており経験もつんでいる。彼女も一刻も早くメータオクリニックにもどり準備を進めたいと心から思い、一方タイへの渡航ができない状況でジレンマを抱える毎日を過ごされていると思う。タイへの入国が一刻も早く許可されるのを願うばかりである。

メディア出演情報

6/24(水)に、NHK WORLDで放送された番組「Her Story」で、シンシア先生とメータオクリニックが取り上げられました。



シンシア先生がメータオクリニックを開設するまでのストーリー、普段のメータオクリニックの様子、コロナ禍で直面している困難などがとりあげられています。





(左) 新型コロナウイルス流行により、マスクの価格が高騰している現状を訴えるシンシア先生
(右) 感染対策が十分に実施された外来ブースで、患者の問診をおこなうスタッフ

下記リンクから無料で視聴できます（1年間）。ぜひご覧ください！
<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2048047/>

国内から

【沢辺 美弥】

初めまして。私は2018年のスタディツアーに参加してから現在もお手伝いさせて頂いています、沢辺美弥と申します。今年の3月に大学を卒業し、現在は地元である富山県の病院で臨床検査技師として勤務しております。

今回は初めてこのような機会をいただいたので、自己紹介も兼ねて大学4年間を通して取り組んだ災害支援活動についてお話ししたいと思います。私は大学の保健学科のボランティアサークルに所属し、東日本大震災被災地の健康支援活動に取り組みました。私にとってはかけがえのない、多くの学びを得た経験です。

この活動では被災地を訪問し住民に対して健康相談会を実施しました。健康相談会の内容としては血圧測定や身体測定、問診、健康教育などです。対象者は高齢者が多く、体組成などの際の何気ない動作にも気を配る必要がありました。もちろん教員の指導を受けながら、安全な会の遂行と、学生ならではの健康教育内容の検討・被災地支援において自分たちにできることなどを考えてきました。教員が用意した問診の用紙には、当初問診の経験が少なかった私にとって、あまりに多くの質問項目が記されており、住民の方から全ての項目についての情報を引き出すことに抵抗がありました。「この項目について聞いてどういう意味があるんだろう。」と疑問を抱きながら行う問診は、対象者にも良い印象を与えなかったのでは？と思いました。

そこで、その課題を大学に持ち帰り、改めて「問診項目の意味」について学生や教員と話し合いました。その結果「ご自身に生活を振り返っていただき、健康に対する意識を持ってもらう」ことが問診の目的であり、そのためには全ての項目についての情報を聞き出すことが重要なのではなく、記載された項目をヒントに対象者にしっかりと自身の生活について振り返っていただく、対象者の語りを引き出すことが重要だと認識しました。この経験から看



護の本来必要とされている役割に触れることができたと感じると同時に、未熟な学生でも何かできる可能性を感じました。

もちろん健康相談会に足を運ぶ住民と本当に健康相談を必要としている住民は必ずしも一致せず、根本的な問題解決には至っていないと思います。しかし参加して下さった住民の方々の笑顔や涙、そして「あなたと話してすごく元気が出た。」「また来てね。」という言葉から自分たちの活動の意味を実感し、また何よりも自分自身が力を得られました。卒業した今でも何人かの方々とはメールや手紙のやり取りをしており、関わりが続いていることを嬉しく思います。

実際には検査技師として働く上では患者さんと直接関わることはほとんどありません。しかし、ここで得た経験と精神は医療者としては欠かすことのできないものだと信じています。これらを大切に日々の業務にも励んでいきたいと思っています。

編集後記

欧州やアフリカに比べ、新型コロナの感染者数が極端に少ない東南アジア。国際線の着陸禁止・国境ゲート閉鎖などの国境対策が功を奏しているという説、感染予防対策を守る従順な国民性（もしくは、守らない人を逮捕するような強力な政府）、SARSの経験など、色々な分析があるようです。今はまだ何が有効なのかははっきりしていませんが、こうした検討と分析が、次なる感染症アウトブレイクの影響を少しでも小さくしてくれますように。

次号の予定

次号は、10月下旬ごろ配信の予定です。

最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さい、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。支援の輪が広がっていきけるよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年 【学生会員】1,825円/年 【法人会員】36,500円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。





NPO法人メータオ・クリニック支援の会
Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て Eメール	support@japanmaetao.org
JAMウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

